

◆ 東京都立荻窪高等学校(公立)

○受講生徒:普通科(Ⅱ部) 17名

○使用時間:2コマ(45分×2)

○充当教科:特別授業

○授業のねらい:・社会保障制度の概要を理解する

・グループ討論を通して、社会保障に加入する意味、制度のあり方を理解する

○使用教材:①映像教材

②理念やあり方ワークシート

③身近な社会保障ワークシート

④10個の「10分間講座」

⑤荻窪高校版オリジナル教材(教材②③④を基に作成)

【1限目】

展開	内容	使用教材
7分	・出欠をとる。 ・オリエンテーション(授業内容の概要、進め方(グループワーク)の告知) ・事前アンケートの実施 ・紙教材の配布	
12分	・「10分間クイズ」を使いながら、現在の統計的な社会背景を解説し、教員の経験を織り交ぜてアイスブレイクを行った。	オリジナル教材パート1
25分	・映像教材の視聴	映像教材 オリジナル教材パート2
1分	・映像教材の簡単なふりかえり。 ・グループ討論の準備(休み時間)	

【2限目】

展開	内 容	使用教材
5 分	<ul style="list-style-type: none"> ・机の位置換え ・2時限目の出欠 	
11 分	<ul style="list-style-type: none"> ・「わたしたちの生活と社会保障」の図を用いて、生涯と様々な社会保障との関係、それぞれの保険の役割について解説をした。 ・「ライフサイクルでみた社会保障の給付と負担のイメージ」について簡単に解説し、さらに、「高校生として必ずおさえておきたい“公的年金のメリット”」のページを使って、預金と年金の違いを解説した。 	オリジナル教材パート2
13 分	<ul style="list-style-type: none"> ・「就職後の生活と社会保障」として、節約型(A君)、普通型(Bさん)、贅沢型(C君:アルバイト)の家計の状況を比較して、違いを把握させた。 ・(1)急に必要になった入院費をどのように支払うか、参加生徒全員で意見を出し合い、その上で、どのような違いが生じるか教員より解説した。 ・(2)会社が倒産してしまった場合にどうしたらよいか、参加生徒全員で意見を出し合い、その上で、「失業保険」がどのような制度か、教員より制度概要を解説した。 	オリジナル教材パート3 ※グループワーク
10 分	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障を支える3つの主体(政府(G)、市場(M)、家族(F))の役割について解説した。 ・その上で、どのような社会保障のあり方がよいか(負担の高低、サービスの高低)について全員で討論した。 ・次ページのグラフを使いながら、低負担・高サービスを選択した場合、どのような社会になるか、教員より解説した。 	オリジナル教材パート4
6 分	<ul style="list-style-type: none"> ・政府(G)、市場(M)、家族(F)のうちどのようなバランスで社会保障の負担がなされるべきか、米国、スウェーデン、日本の違いを解説した上で、生徒各自に検討させた。 ・その上で、教員が検討し終わった生徒の検討結果を板書しながら、教員がどのような意味があるか解説した。 	オリジナル教材パート4 ※グループワーク

(参考)授業を担当した教師や受託会社の授業後の感想(「地域社会保障推進事業実施報告書」より)

効果的だったと思われる点	<p>○まずクイズを行って生徒の関心をひき、続いてDVDを視聴し、その上でグループワークを行うというストーリー展開で進めたため、グループワークで問われていること(社会保障を払っていないとどういうリスクがあるか、社会保障のあり方と、その「あり方」と国民の負担との関係)について、正しい制度理解のもとに検討がなされ、「実感」をもちながら理解させることができたと思われる。生徒の意見としても、グループワークは、「面白かった」という意見が複数あった。</p> <p>○10 分間クイズを導入で使用したことにより、生徒を授業に惹きつけることができたと思われる。生徒の意見の中にも授業が「面白かった」という声があり、導入にインパクトのある問いかけをする効果があったと思われる。</p>
問題点等	<p>○グループワークについては、面白かったという意見があった反面、「盛り上がらなかった」という意見もあった。実際、グループワークに割ける時間は10分程度であり、十分に検討する時間を取れていなかったことがプログラムの問題点だったといえる。</p>